

GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 216

2014/08/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

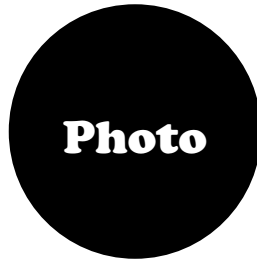
GREEN COLUMN

01. 幸運のダブルレインボー

02. 清流のトンボ



今月の一枚



「土器の野焼き」

表紙写真・文／八重柏誠

先月のコラムで紹介しました土器作り講座ですが、先日製作した縄文土器の野焼きを実施しました。美幌博物館では、博物館裏にあるキャンプ場のファイヤーサークルをお借りして、野焼きを行っています。近くに火を扱うことができる場所があるのはありがたいものです。

講座参加者と一緒に、薪をくべて、勢いよく立ち上る火柱を眺めながら、土器の野焼きの成功を祈りました。今回の野焼きでは、参加者全員が壊れることなく、土器が焼き上がりホッと胸をなでおろしているところです。

Event. 今月のイベント

特別展「ボクたちの町にくらす野鳥」 7月6日（日）～10月26日（日）

モノ作り講座「小さな水族館を作ろう」 8月1日（金）, 2日（土）

プチ工房「海岸のバラ ハマナスのバスボム」 8月7日（木）, 14日（木）

Information. 参加者募集

プチ工房 「海岸のバラ ハマナスのバスボム」

● 8/7 (木), 14 (木) 10:00 - 12:00, 13:00 - 16:00 自由に入室。作品ができたら終了 ● 美幌博物館 1F 講座室 ● 材料費（200 円） ● 城坂結実（美幌博物館） ● 申込み不要

今月の休館日

4 日, 11 日
18 日, 25 日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

幸運のダブル レインボー

写真・文／八重柏誠



それは5月のとある夕方のことでした。美幌町は激しい夕立に襲われるも、みるみると天候が回復していき、雲の切れ間から青空が覗き始めました。すると東の空に、綺麗な虹が出現したのです。私が見た時には、2重のアーチを描いていたので、慌てて虹を撮影。普段なかなか見ることのできない2重の虹に、興奮してしまいました。

さて、珍しい2重の虹について、少し調べてみました。今回見られたような2重の虹のうち、内側の虹を「主虹（しゅこう）」、外側のぼんやりとした虹は「副虹（ふくこう）」と呼んでいるそうです。主虹は、赤が一番外側で紫が内側という構造ですが、副虹は逆に、赤が内側、紫が外側となっています。虹は、太陽の光が雨粒で屈折・反射して見られるものですが、1回の反射で主虹、雨粒の中で2回反射すると

副虹が出現します。2回反射した分、副虹は暗いそうです。また、今回見られた主虹の内側には、更に色のついた部分が僅かですが、ぼんやりと見えています。これは過剰虹と呼ばれるもので、雨粒が比較的小さくて大きさの揃った、穏やかな雨の時に見られるそうです。副虹と過剰虹は、モノクロの写真では分かり辛いかもかもしれません。気になる方は美幌博物館ホームページで、カラー写真をご覧ください。

さらに、2重の虹について、ハワイではダブルレインボーと呼ばれています。昔からの言い伝えでは、これを見た人は「幸せになる」とか「願いが叶う」と言われているそうです。私にも何か良いことがあるといいのですが・・・。

皆さんも雨上がりの空を見上げて、幸運のダブルレインボーを探してみてください。はいかがでしょうか。

02 GREEN COLUMN グリーンコラム

清流の トンボ

写真・文／鬼丸和幸



トンボの仲間であるムカシトンボは、5月下旬～7月上旬にかけて見られる、中型のトンボです。その名前の通り、約1億5,000万年前のトンボの化石と同じ姿をしていることから、その名前がつけられました。成虫になるのに、7～8年かかり、自然環境が安定した清流でないと生きていけない、貴重なトンボです。

美幌町では、これまでの博物館の調査で、網走川支流でのみ発見されていましたが、今年の調査で、美幌川上流の支流で生息していることが、確かめられました。生息が確認できた川は、流れが穏やかな川で、多数の水生昆虫類や貝類などが住んでいます。川の広い範囲にわたり、大小様々なムカシトンボの幼虫、そして川に沿った林道で、多くの成虫の姿を確認できました。

今回の調査で、初めてわかったことがあります。これまでの調査で、ムカ

シトンボは、フキに産卵するのを確認していましたが、この川では、ほとんどの場合、ミミコウモリやバイケイソウといった植物に産卵していました。ムカシトンボは、いろいろな植物に産卵することが知られていますが、ミミコウモリやバイケイソウに産卵した例は、あまり知られていません。

かつて、環境省水質調査で、“清流日本一”に輝いたこともある美幌川。美幌川支流で、ムカシトンボの生息が確認されたことで、トンボの目から見ても、美幌川周辺に豊かな自然が残されていることが確かめられました。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253-4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



突然尿管結石となり、“痛い病気”の3本指に入るといふ激痛を経験しました。病院へ行くと「痛み止めの薬で我慢。なわとび・1日2リットルの水を飲んで、早く石を出すこと」「それしかないの？」…実践しましたが、いまだ石が出てくれません。わずか5ミリの石にも反応する人間の神経伝達機能…これはこれで、人間の体は良くできていると感心しました。(鬼丸)